

児童・生徒の現状・課題

- ・学習規律が身に付いていない児童がいる。
- ・学びに対して、受け身の児童が多く、自分から課題を見つけて見通しをもって主体的に取り組む児童が少ない。
- ・学び方を選択できる児童が増えた。学び方を適切に経験させ、児童がより主体的に学びに向かえるとよい。



学び続ける力を育むための重点目標

- 子供たちが自分に合った学び方を身に付け、他者と関わったり、自分に合った学び方を選択したりしながら学習できるようにする。



児童生徒調査

| 肯定的回答の割合(%) | 昨年度 | 目標値(5月) | 結果(1月) |
|---|-----|---------|--------|
| ①自分から進んで計画を立てて学習している。 | 86% | 90 | |
| ②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。 | 81% | 90 | |

教員調査

| 肯定的回答の割合(%) | 昨年度 | 目標値(5月) | 結果(1月) |
|---|-----|---------|--------|
| ①問題や課題に取り組んでも上手くないときにどうすればよいか児童が自ら方法を選択し行動できるよう解決の方法を示している。 | 83% | 90 | |
| ②授業では、学習課題や学習過程等、児童生徒が学び方を選択する場面を設定している。 | 79% | 90 | |

具体的な手だて①

単元の分析を行い、個別と協働が往還できるような授業デザインを、各教科部会で校内に提案していく。

具体的な手だて②

オープンスペースや一人一台端末の活用など、児童が自分の得意なことや目的に合わせて学べる環境づくりを進める。

具体的な手だて③

授業、もしくは単元の最後に振り返りの時間を必ず設定し、学び続ける力の要素を常に意識して学習に取り組めるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・教科部会で授業について話し合うことを日常化する。
- ・研究推進委員会を中心に、主体性を伸ばす学習の実践や資料を発信することで、授業改革に取り組みやすい環境をつくる。

総括(5月)

全国学力調査の結果から、文章や資料を複数読み、自分の考えを文章で表現するという問題に弱い傾向がある。一方で、ICTのスキルが都の平均より高いことや規則正しい生活ができているという面もある。そこで本校では、知識・技能を身に付けた上で思考判断表現をさせるような学習をしていく必要がある。教えることをしっかり教え、児童がその技能を活用して、思考判断表現できるような学習づくりを目指していく。今年度から校内研究で取り組む教科部会から、系統性のある指導や授業デザインについて提案していくことで授業改革をより活性化していきたい。

総括(1月)